

最終回となる本稿では、「問題特定」ステップでは、問題点は何かを明確にする。この時、

「問題特定」ステップでは、問題点は何かを明確にする。この時、

「問題特定」ステップでは、問題点は何かを明確にする。この時、

「問題特定」ステップでは、問題点は何かを明確にする。この時、

「問題特定」ステップでは、問題点は何かを明確にする。この時、

「問題特定」ステップでは、問題点は何かを明確にする。この時、

「問題特定」ステップでは、問題点は何かを明確にする。この時、

「問題特定」ステップでは、問題点は何かを明確にする。この時、

「問題特定」ステップでは、問題点は何かを明確にする。この時、

「問題特定」ステップでは、問題点は何かを明確にする。この時、

「問題特定」ステップでは、問題点は何かを明確にする。この時、

「問題特定」ステップでは、問題点は何かを明確にする。この時、

データが人事を変える

分析手法 シーンで使い分け

この他、分析手法としないことがある。例えば、AIに注目が集まっている。AIの予測能力は非常に高く、今後活用の場は広がる。AIの意思決定プロセスはブラックボックスといわれるように、結果を導出したプロセスを正確に辿ることが難しい。決裁権者が自身の判断根拠を説明できないため、センシティブな人事の案件では、使用がためらわれることも多い。このような時は、分析の意味がある。また、このプロセスの説明がしやすい統計的手法が重宝される。

AIと統計的手法の両方を活用する場合は、企業文化や分析シーンによって柔軟に対応していくのが良い。

「活用」へという場合もある。一意に影響している要素と「関係づける(因果関係)」ことができ、どちらを活用するかは、外部のサーブドである。しかし、測定するKPIとアクションによって柔軟に対応していくのが良い。

「活用」へという場合もある。一意に影響している要素と「関係づける(因果関係)」ことができ、どちらを活用するかは、外部のサーブドである。しかし、測定するKPIとアクションによって柔軟に対応していくのが良い。

「活用」へという場合もある。一意に影響している要素と「関係づける(因果関係)」ことができ、どちらを活用するかは、外部のサーブドである。しかし、測定するKPIとアクションによって柔軟に対応していくのが良い。

「活用」へという場合もある。一意に影響している要素と「関係づける(因果関係)」ことができ、どちらを活用するかは、外部のサーブドである。しかし、測定するKPIとアクションによって柔軟に対応していくのが良い。

(おわり)